

HPV（子宮頸がん予防）ワクチンの 法定接種スケジュール

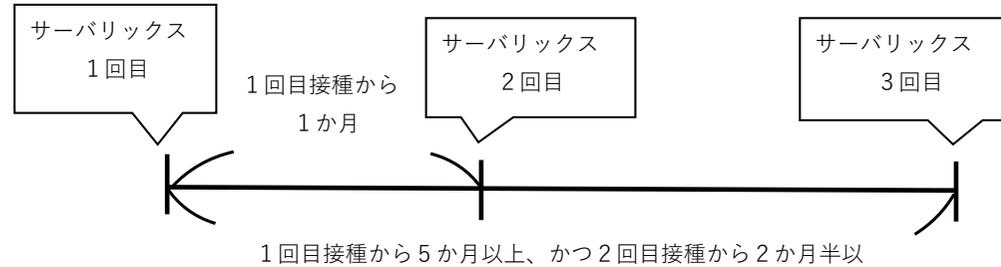
※標準スケジュールで接種できない場合

（高校1年生相当年齢のお子さんで、1回目接種が10月1日以降になる場合にもこちらの方法で接種します。）

サーバリックス（2価ワクチン）を接種する場合

【サーバリックス（2価）ワクチン】

1回目接種後1か月の間隔をあけて2回目を接種、
1回目接種後から5か月以上、かつ2回目接種から2か月半以上の間隔をあけて3回目を接種して完了します。



1回目を10月中に接種することで、3回目まで公費で接種することができます。

例えば・・・

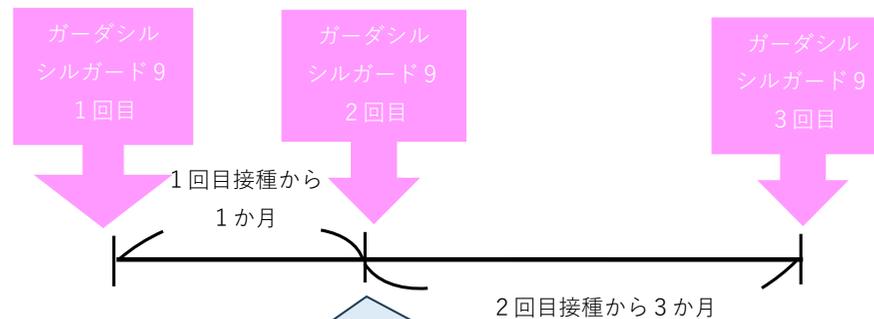
1回目接種：10月26日、2回目接種：11月26日、3回目接種：3月26日

※接種スケジュールの一例です。休診日や体調不良などは考慮しておりませんので、余裕を持ってスケジュールを立てましょう。

ガーダシル（4価ワクチン）、シルガード9（9価ワクチン）を3回接種する場合

【ガーダシル（4価）、シルガード9（9価）ワクチン】

1回目接種後1か月の間隔をあけて2回目を接種、
2回目接種後から3か月の間隔をあけて3回目を接種して完了します。



2回目を年内に接種することで、3回目まで公費で接種することができます。

例えば・・・

1回目接種：11月26日、2回目接種：12月26日、3回目接種：3月26日

※接種スケジュールの一例です。休診日や体調不良などは考慮しておりませんので、余裕を持ってスケジュールを立てましょう。

インフルエンザなど他の予防接種を受ける場合は、HPVワクチンとの接種間隔に制限はありません。医師が必要と認めた場合、同時に接種することができます。

